ISSN1880-4063

第386号
2021年
5月25日
月1回25日発行

# げんぱつ
原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター
発行人 持田繁義／1部300円 年間3,000円
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13
MMビルⅡ402
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578
郵便振替 00150-7-355202
ホームページ http://genpatu.com/index.html
メール＝genpatu-c@bizimo.jp

## 老朽原発の40年超再稼働に知事同意

## 「脱炭素社会」への原発活用受け

### 福井 美浜・高浜の原発3基

福井県の杉本達治知事は4月28日、県庁で記者会見し、運転開始から40年を超えた関西電力の美浜3号機（同県美浜町）と高浜1、2号機（同県高浜町）の再稼働に同意すると表明した。福島第1原発事故後、原発の運転期間を原則40年と定めたルール下で初めて特例20年の延長運転となる。

ただ、3基はテロ対策施設の建設が遅れており、仮に再稼働しても、高浜1、2号機は6月上旬、美浜3号機は10月下旬に設置期限を迎え、停止する。

菅首相が温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「脱炭素社会」の実現を掲げ、既存原発の活用をすすめる方針を示したことが、大きな節目となった。国は2019年度に6％だった原発の発電比率を30年度に20～22％に引き上げる目標を今後も維持するとしている。今後、40年運転期限を迎える原発が相次ぐ中、原発の延命がなし崩し的に認められる流れが懸念される。

40年運転の期限を終え、運転延長を原子力規制委員会から認められた原発は、関電の3基と日本原電＝東海第2原発（茨城県東海村）の計4基ある。東海第2原発は、同意手続きは進んでいない。

今回の杉本知事の同意表明は、県民の生命と財産への脅威などさまざまな懸念を押し切り決断したもので、その政治責任は重い。

老朽化が進む3基の安全性や避難計画の実効性への懸念は解消されていない。関電役員らによる金品受領問題からの信頼回復もできていない。難題を抱えての運転再開となる。

杉本知事は、使用済み核燃料を一時保管する中間貯蔵施設の県外候補地を確定することを再稼働の条件としてきた。関電は23年度末までの確定を約束したが、選定の見通しはない。

電気事業連合会は、むつ市に建設中の東電・原電用の中間貯蔵施設を、電力各社が利用する「共用化」をむつ市に申し入れたが、宮下宗一郎・むつ市長は反対を鮮明にしている。（6面参照）再稼働すれば、使用済み核燃料がその分増えるが、その処理の見通しもない。

もともと、原発固執に未来はない。杉本知事の再稼働同意は、ないない尽くしの約束違反である。原発固執をやめるときである。

○「核先制不使用」米宣言検討に日本が反対（2面）
○危機意識にかける「エネルギー基本計画」（3面）
○福島第1廃炉「乾いた島」構想 専門家が提案（4面）

## 警鐘

●福島第1原発に増え続ける汚染処理水の政府の海洋放出決定に、被災者はじめ国民の間で批判の声が高まり、広がっている●放射能汚染水を多核種除去装置施設（アルプス）で処理しても、トリチウムは除去できない。処理水にはトリチウム以外の放射性物質が基準を超えて残っている。これを再びアルプスで再浄化し、トリチウムは海水で薄めて海洋放出するという●国と東電は、トリチウムは放射能が弱く、体内に入っても排泄されるから問題ないとする。しかし、トリチウムの安全性を直接示すデータを示さないで「安全」といっても説得力はない●ジャガイモ、タマネギなど放射線照射食品では、動物実験で安全性を確認したデータが公開されている。タマネギでは、照射タマネギと非照射タマネギを食べさせた双方のモルモット群から異常が確認された。照射による異常ではなくタマネギの毒性が確認される思わぬ成果も…●トリチウムが安全というなら動物実験を行い、そのデータを示すべきである。